

祝カズオ・イシグロ ノーベル文学賞受賞！ 8作全てうちの図書館にあります。

眞鍋由比

10月5日（木）午後8時過ぎ、いつものようにtwitterを見ていたら急上昇ワードにカズオ・イシグロの名前が！え、なんでと思ったらノーベル文学賞受賞って！1994年に映画「日の名残り」を観て以来、カズオ・イシグロの作品は大好きで、生まれて初めて自分が好きな作家がノーベル賞を取りました（今までは全て受賞してから読んでいた）。

今回おすすめするのは彼の故郷・ナガサキが舞台の『遠い山なみの光』。これは以前、中公文庫で『女たちの遠い夏』として刊行されていたもので、イシグロのデビュー作で王立文学協会賞受賞作です。

太平洋戦争後のナガサキ。子どもを身ごもっている悦子は子どもをつれていく佐知子と知り合う。夫が死ぬ前は裕福な生活をしてきた佐知子は、いまはうどん屋の手伝いをしないと生活がむずかしいほど。その子の万里子は強情な子で、自分を馬鹿にする男の子をやっつけたりする子なのだけれど、この子は戦時下の東京で見た光景におびえる毎日だったのだ。そしてその光景は後に子猫の悲劇となってもう一度彼女に襲い掛かる。

現在の悦子は二郎と別れてイギリスに渡り、イギリス人の子どもを育て、ニキという彼女の娘も大きくなっている。彼女と二郎の娘景子は首をつって自殺した。昔、ナガサキで出会った母娘のことを思い出しながら、自分と娘も同じ運命を歩いている…フーガのように。

景子はどのようにして死んだのか、悦子はどのようにして夫と別れてイギリスまでいったのか、明確には描かれていないので推測するしかありません。でもこれがイシグロの世界。幻影と記憶の中の人生。困難な状況を受け入れ、一筋の希望をもって懸命に生きていく人間たち。

訳者の方が「最初、作者が（5歳でイギリスに渡ったから）ほとんど日本語を読めないの
で人名はカタカナ書きにしようと考えたが、作者からある人物の名にある漢字は避けて
欲しいと連絡があって漢字表記にふみきった」とあとがきで書かれていた。だからこの
漢字は訳者が考えてふったもの。佐知子と万里子には個性的な彼女たちにあわせて目立
つ文字を、景子には左右対称の文字を選んだそう。

もしかしたらSachiko=幸子？Keiko=恵子？戦後の不幸ななかで淡い希望の中生き抜
いていこうとした人たちに恵まれた幸せなど安っぽい希望を示す漢字を使いたくなかつ
た？いや、訳者の方がふせていらっしやるので、何の漢字かはわからないのだけど。

今読んで面白かったのは悦子の姑の緒方さんが、自分が就職を世話した、息子と同年代
の松田重夫が自分たちと違う共産主義の論文を発表したことを注意しようとおなかの大
きい悦子と一緒に松田宅に行ったときに松田が言ったセリフ

「緒方さんの時代には日本の子供たちは恐るべきことを教わっていました。じつに危険
な嘘を教えられていたんです。いちばんいけないのは、自分の目で見、疑いを持つこと
を教えられなかったことです。だからこそ日本は史上最大の不幸に突入してしまったん
です」 今の日本はどうか。不幸に突入しようとしていない？4割の人が選挙に行かないおかげで、恐ろしいことがおこっているのに。

『日の名残り』 ブッカー賞受賞作。

この映画、今回見直してみましたが、少しも古びず、美しい映画
でした。抑制の効いた、大人の恋と後悔。ダーリントンホールで
仕えた執事スティーブンスとメイド頭ミス・ケントン（後にミセ
ス・ベン）。スティーブンスが心から敬愛した主人ダーリントン
卿は第一次世界大戦の折に仲良くなったドイツ人が亡くなったの
で敗戦国ドイツの窮状を哀れみ、できるだけ援助してやりたいと
外交でも力を尽くした。けれど、それがナチスに利用されること
になり、イギリスからは裏切り者と目されてしまう。人格的には
慈愛に満ちた主人だが、ユダヤ人と知ってメイドを解雇するなど、
過ちもあった。後に卿は過ちを認め、行方をさがさせた。卿が亡
くなり、屋敷がアメリカ人に買われ、イギリス西部への旅を許されたスティーブンスは、あ
のナチスのシンパの？とダーリントン卿のことをとがめられ、「そんな人は知らない」とつ
い言ってしまう。のちに「実は知っています。とてもいい人でした」と答えます。でも彼の
考え方にも賛同していたのかと聞かれ「考え方などは関係ない。卿は晩年には過ちを認めて
いた。私も過ちを正すたびをしているところです」と答える。一度は間違い、そして正す。
人生はその繰り返し。だれだって強くない。でも正しくいたい。取り戻せない過ちもあるの
だけれど、美しい記憶は消えない。アンソニー・ホプキンスとエマ・トンプソンの名演、そ
してクリストファー・リーブのアメリカ人、名づけ子のヒュー・グラントとなかなか名キャ
ストが名を連ね、美しいイギリスの屋敷、田園風景、見事な音楽で楽しめます。本館でDV
D貸出可能です。

ブッカー賞Booker Prizeとはイギリスの文学賞。イギリス
でもっとも権威ある文学賞の一つで、世界的にもよく知られてい
る。1968年に創設され、翌1969年に第1回の表彰が行われた。ブッ
カー賞は通称で、正式名称はマン・ブッカー小説賞The Man Book
er Prize for Fiction。賞のスポンサーであるイギリスの投資会
社マン・グループMan Groupに由来する。賞の対象は、イギリス
とイギリス連邦諸国およびアイルランド国籍の作家が執筆し、イ
ギリスの出版社から刊行された長編小説に限られていた。しかし、
2014年の選考からこの国籍条項が撤廃されることになり、英語で
執筆された作品であれば、世界中の作家と作品が対象になる。

